

2022 年度学位授与式 学長告辞

卒業生・修了生のみなさん、卒業・修了おめでとうございます。本日、北方キャンパス・ひびきのキャンパス合わせて、学士 1,416 名、修士 155 名、博士 17 名のみなさんに学位が授与されました。

学位授与式を全員が一同に会して行うのは 4 年ぶりです。ただし、ご来賓や保護者の方のご参列はご遠慮いただいております。後援会と同窓会の各会長様にはご参列をいただきました。誠にありがとうございます。

新型コロナの感染は大きな影響をもたらしました。とりわけ学生のみなさんにとっては、目の前で店のシャッターが下ろされ、商品を手にとることもメニューを見ることさえできなくなったような気持ちではなかったでしょうか。緊急事態宣言が出され、大学の授業はすべて遠隔となってしまいました。自分は何を目指しているか見失ってしまったこともあったかもしれません。

今年の 2 月に漫画家の松本零士さんが亡くなりました。星の海に旅立たれたのです。北九州市で育ち、北九州にゆかりのある松本さんは、北九州市漫画ミュージアムでの初代名誉館長も務められ、その死は北九州市にとっても大きな存在が失われたような思いです。

松本さんは戦争をテーマにした作品を多く描かれています。父親から聞かされた戦争体験が作品のテーマに影響を与えていると言われていています。松本さんの父親は、陸軍パイロットとして多くの部下を失った無念さを抱かれています。それは次のような言葉に表れています。「人は本来、生きるために生まれてくる。死ぬために生まれてくる命はひとつもない」。

ロシアのウクライナ侵攻から 1 年とちょうどひと月が経ち

ました。多くの人々が命を落としていく現実には、私たちには何もできない無力さを感じるばかりです。

日本にいる私たちは戦火の恐怖を覚えることなく、自分のやりたいことができます。教えることそして学ぶことが自由にできることにありがたいと思わなければなりません。コロナの感染拡大によって学びや活動に様々な制約があったにしても、それはウクライナをはじめ紛争下におかれている人々あるいは貧困に苦しんでいる人々に比べれば取るに足りないことかもしれません。

人は必ず死を迎えます。しかし、松本さんの言葉にあるように、死ぬために生まれてくるわけではありません。人生を終えること自体がゴールではないはずです。一方、大学は在学期間を終えたとき、その目標である卒業や修了を迎えます。ただし、大学も人生と同様にその期間を終えることを目標としているではありません。その期間に、人生においては「生きる」、大学においては「学ぶ」、それをどうしてきたのかが問われるのです。

コロナ禍にあって、皆さんは勉学が思うように進まなかった日々もあったことでしょう。視聴していないオンデマンドの授業が溜まってしまったり、課題をうまくこなせなかったりと、一日を振り返り、今日も何もできなかったと反省し、自己評価に×をつけた日が幾日も続いたことでしょう。

それも、戦禍や貧困のため、生きることに精いっぱいの日々を送っている人々に比べれば、幸せなことかもしれません。

ただし、「生きる」とは、ただ命を落とさず日々過ごすことではないはずです。何か目的をもって過ごすことです。

1950年代から60年代に活躍したアメリカの心理学者のマズローは人間の欲求を5つの階層として提唱しました。一番下は、食や睡眠などの人間が生まれながらにもっている生理

的欲求です。その上が安全の欲求、次は所属と愛情の欲求、家族・友人・恋人など人との関わりを求めたり、学校や会社などの組織の中で役割を果たすことを求めたりします。さらにその上の4番目が尊敬の欲求、他者から認められ尊敬されたいという欲求です。そして最上位に自己実現の欲求があると捉えるのです。

5つの欲求は、人が成長するにつれ、上位の階層の欲求が相対的に強くなると言われていています。しかし、戦火にあっては、下から2番目の安全の欲求が最優先されてしまいます。皆さんと同じ年代であれば、すでに所属と愛情の欲求、あるいは尊敬の欲求を求める段階のはずです。それがかなわず、日々の安全を求めるだけの生活になってしまうことは、いかに不条理なことでしょう。一国の為政者の欲求のために、多くの人々が犠牲になることが許されるものではないはずです。

マズローの欲求階層説は、さまざまな批判はあるものの、経営学などにも影響を与えており、人の生き方を端的に表したのものとも捉えられています。「生きる」ということは、これらの欲求を満たすことであるかもしれません。その欲求は夢の実現であるとも言っていていいでしょう。

今皆さんは、次の進路での新たなスタートを目の前にし、大きな夢を抱いていることでしょう。しかし同時に不安もあるはずです。

松本零士さんは、次のような言葉も残しています。「時間は夢を裏切らない。夢も時間を裏切ってはならない」。叶えたい夢を実現するには多くの努力が必要です。何も成果が出せず×が並んでしまう日々が連なるかもしれません。そうであっても、その努力した時間は裏切らず、夢を叶えるための力となります。その日々のひとつひとつが「生きる」証でもあるのです。生きることは、何か目に見える成果を出さなければ

ならないわけではありません。目標に向かって日々努力していること、それが「生きる」意味なのです。

そして、夢を持ったなら、×がいくら続いても諦めてはいけません。諦めることはそこまで努力した自分自身の夢を裏切ることになるからだとして松本さんは述べています。自らシャッターを下ろしてはいけません。どんなに×が続いても、いつかは○をつける日がくるはずです。

大事なのは自分で自分を認め、自分で○をつけること、それは小さな○でもいいのです。「生きる」というのは自分自身の問題ですから、自分で○をつけることに意味があるのです。

マズローは欲求の最上位に自己実現の欲求を掲げています。マズローのいう自己実現は崇高で偉大なるものを想定しています。松本零士さんのように多くの人に感動をもたらした優れた業績を残した人はマズローのいう自己実現者でしょう。残念ながら私たちはその範疇に入らないかもしれませんが、自己を卑下することなく、自分の持っている力を発揮し、自分自身に○をつけること、自己肯定感を持つことは、自分にとっての自己実現だと言ってよいでしょう。

ウクライナの人にとっては戦争が終わることが願いでしょう。しかし、戦争の終わりは残念ながら自分で決めることができません。ウクライナの人にも自分で自分自身に○をつけることができる日が一刻も早く来ることを願っています。

そして、今日、卒業・修了を迎えた皆さんも、これまで皆さんが努力してきたことを裏切らず、自分を見失うことなく、自分らしい人生を歩んでください。きっと遠い星の海から松本さんも皆さんを見守ってくれていることでしょう。

コロナ禍の行動制限も緩和されようとしています。店のシャッターが上がり商店街に活気が戻ってきたように、自分たちのやりたいことができるようになりました。今、マスクを

外した皆さんの表情を見ることができます。とても晴れやかな表情に皆さんの明るい未来を確信することができます。

改めて皆さんに祝福を申し上げます。卒業・修了おめでとうございます。

2023年3月24日 北九州市立大学長 松尾太加志

(参考)

Maslow, A.H. Motivation and Personality. Harper & Row Publishers. (1954)

松本零士「君たちは夢をどうかなえるか (YA心の友だちシリーズ)」PHP研究所(2018)

神田莉緒香「×」ストロボミュージック(2015)